

議題(2) 基礎調査等の結果概要について

基礎調査等の結果概要（今後のまちづくりにおける主要課題等）

1 基礎調査

(1) 調査の概要

新総合計画の策定支援業務を委託している株式会社富士通総研では、7～9月頃にかけて社会経済の動向分析、市の動向分析等に基づく基礎調査を実施し、今後、市がどのような点に基軸を置いてまちづくりに取り組むべきかを「今後のまちづくりにおける重要課題」としてまとめました。

(2) 調査の結果

「今後のまちづくりにおける重要課題」は、「社会経済の動向分析に基づく結果」と、「市の動向分析に基づく結果」の2つの視点からまとめられており、さらにそれぞれの視点において、様々な分野ごとにまとめられています。

この結果によれば、少子高齢化と人口減少がもたらすマイナスの影響が各分野に及んでおり、この影響を最小限に食い止めることが共通の課題となっているといえます。なお、調査結果については、今後「基礎調査報告書」としてまとめる予定ですが、今回の会議の審議内容に関わる現時点での調査結果を、以下のとおり抜粋します。

ア 社会経済の動向分析の結果（現時点の結果）

分野	重要課題
人口	<ul style="list-style-type: none"> ◆本格的な人口減少・少子高齢社会の到来は、地域経済社会の安定・成長を大きく損なうとともに、これまで厚い現役世代層に支えられていた社会保障制度の持続可能性の低下を招くなど、極めて多岐にわたる面でわが国全体がかつて直面したことの無い問題を引き起こすことが大いに懸念されます。 ◆このような社会が到来した場合、当市では、住宅・土地の需要の低下や既存住宅ストックの老朽化の進展、コミュニティ機能の弱体化、地域住民の日常生活に密着した商業・サービス業の衰退等を引き起こし、それが地域経済社会の活力をさらに損なう負の連鎖を招くおそれがあります。 ◆わが国が世界一の長寿社会を迎えている中、70歳やそれ以降でも、個々人の意欲・能力に応じた力を発揮できる時代が到来しつつあります。今後、当市でも、「高齢者を支える」発想に加え、一人でも多くの意欲ある高齢者がその能力を発揮することを可能にする社会環境を整える重要性が飛躍的に増していくと考えられます。

産業・経済	<p>◆人口減少・少子高齢社会の進展に伴う働き手の減少は、わが国経済の持続的な成長を実現する上で、乗り越えなければならない大きな制約の1つと考えられる一方、第4次産業革命の進展により、これまでは不可能と思われていた社会の実現が可能となりつつあります。</p> <p>◆今後、当市でも「Society5.0（超スマート社会）」の実現により、多くの市民が自分の意思で働く場所や時間を選択することが容易となることで、自宅等で従業する昼間人口の増加による市内消費の喚起、女性や高齢者をはじめとする働き手の掘り起こしによる税収の増加など、様々な波及効果の創出が大いに期待されます。</p>
都市インフラ	<p>◆将来的に当市でも地域間での人口集積の偏在等により、「都市のスポンジ化」が顕在化することにより、市民生活を支える商業・公共交通等の縮小・撤退による利便性の低下、行政サービスやインフラ施設の維持管理の不効率化、近隣・周辺を含めた居住環境の悪化など、様々な面で深刻な問題が発現するおそれがあります。</p> <p>◆今後、当市でも急速な高齢化の進展に伴って扶助費が増大し、財政構造の硬直化が深刻さを増すことで、人口急増期に整備された既存の公共施設の機能を適切に維持するための建替えや大規模改修等に充当可能な投資余力が低下するおそれがあります。</p>
地域コミュニティ	<p>◆世帯の小規模化は、地域住民の価値観やライフスタイルの変化等と相まって、人間関係の希薄化や規範意識の低下、居住者の匿名化等につながり、ひいては地域コミュニティの弱体化を招くおそれがあります。</p> <p>◆今後、人口減少・少子高齢社会の進展をはじめとする社会経済情勢の変化に伴い、ますます個人や地域社会が抱える課題が多様化・複雑化していくと見込まれる中、全国的にも行政の能力だけでこれらの課題にきめ細かく対応することは、もはや限界にさしかかっており、当市でも地域コミュニティが果たす役割の重要性は従来にも増して高まっていくと見込まれます。</p>
自治体経営	<p>◆近年、全国的に自治体経営を取り巻く社会経済情勢が急速な変化を続けている中、それぞれの地域が直面する様々な課題により迅速かつ的確に対応できるようにするため、地方分権改革のさらなる進展への期待が高まると考えられます。</p> <p>◆本格的な人口減少社会の到来に伴う人口の低密度化や高齢化等の進展によって、今後、当市においても扶助費や人口1人当たり投じるインフラ（下水道や道路など）の維持管理費等の行政コストが増大する一方、これらに充当可能な経営資源（財源や職員など）の制約が強まっていくことが大いに懸念されます。</p>

イ 市の動向分析の結果（現時点の結果）

分野	重要課題
人口	<p>◆近年、これまで堅調な増加を続けていた人口の伸びが徐々に縮小傾向に転じている中、将来的に地域の経済社会を支える中心世代である担税力の高い生産年齢人口の減少傾向が強まることで、医療・介護等の社会保障の担い手の減少や消費市場の縮小、居住・商業・教育・防犯・公共交通など、住民の日々の暮らしを支える都市機能の低下等を引き起こし、地域経済社会の活力が大きく損なわれる事態につながるおそれがあります。</p> <p>◆将来的な人口構造の変化によるマイナスの影響を最小限に食い止めることができるよう、現時点から、子育て・介護等と仕事の両立支援を通じた夫婦共働き世帯の定住化、高齢者の健康寿命の延伸、既存の住宅ストックの適切な維持管理や既成市街地の質を高めるための取組など、様々な観点から「人口が減りにくいまちづくり」を総合的に推進する必要があります。</p>
産業	<p>◆今後、当市においても、高齢者を対象とした医療・介護や各種生活支援サービスに対する需要が飛躍的に高まるほか、ロボット技術等、技術革新の進展によって、食料品製造や建設業など地域外から所得を獲得している産業の再編や雇用の流動化が進み、産業構造が大きな変化を遂げる可能性があります。</p> <p>◆このような時代の変化を見据えながら、将来にわたってより足腰の強い産業構造の構築を図るため、柔軟な土地利用の規制・誘導等により、市内企業の新陳代謝を側面から支援するとともに、人口減少・高齢化の進展等に伴う需要の変動に対応した個人向けサービス産業の振興に取り組む必要があります。</p>
土地利用	<p>◆従来のように新しいまちをつくる開発から、既存市街地の豊かな成熟へと視点を転換し、各地域によって特性が大きく異なる市街地の魅力・可能性を最大限に引き出し、良好な市街地環境や住宅地としての価値の維持・向上に向けた住民・事業者・地権者等による主体的な取組をきめ細かく支援する必要があります。</p>
行財政	<p>◆今後、急速な高齢化の進展が予測される中、扶助費や既存の公共施設の機能を適切に維持するための建替え・大規模改修等に投じる投資的経費など、歳出の増加圧力がさらに強まっていくと見込まれます。</p> <p>◆当市が将来にわたって健全な財政運営を堅持するためには、自助・共助・公助を適切に組み合わせながら、選択と集中のもと、不断の取組として行財政改革の強化・徹底を図ることによって、新たな財源の捻出や予算の重点化等を積極的に推進し、より強靱な自治体経営基盤の構築に尽力することが必要です。</p>

2 市民意識調査・中学生アンケート

(1) 調査の概要

6～7月頃に実施した市民意識調査及び中学生アンケートにおいて、「現在の東大和市のイメージ」「今後の望ましい東大和市のイメージ」について、それぞれイメージの強い順に、3つ選択してもらった。

(2) 市民意識調査

- ・調査対象 市立在住の18歳以上の市民3,000人（無作為抽出）
- ・調査時期 令和元年6月19日（水）から7月12日（金）まで
- ・回収結果 739人（回収率24.6%）

(3) 中学生アンケート

- ・調査対象 市立中学校の生徒 1,010人
- ・調査時期 令和元年6月3日（月）から6月14日（金）まで
- ・回収結果 863人（回収率85.4%）

(4) 調査の結果

市民意識調査及び中学生アンケートの結果によれば、現在の東大和市のイメージとして「自然が豊かなまち」「住みやすいまち」の順位が高く、今後の望ましい東大和市のイメージとして「住みやすいまち」の順位が高い。

このことから、豊かな自然に囲まれた住環境に対する市民の評価は高いといえる。

【現在の東大和市のイメージ】

●市民意識調査

順位	イメージ	構成比
1位	自然が豊かなまち	37.1%
2位	住みやすいまち	30.0%
3位	落ち着いた雰囲気のまち	11.4%
4位	子育てがしやすいまち	4.3%
5位	交通の利便性のよいまち	3.1%

●中学生アンケート

順位	イメージ	構成比
1位	自然が豊かなまち	24.1%
2位	住みやすいまち	20.7%
3位	落ち着いた雰囲気のまち	14.5%
4位	子育てがしやすいまち	10.6%
5位	交通の利便性のよいまち	4.8%

【今後の望ましい東大和市のイメージ】

●市民意識調査

順位	イメージ	構成比
1位	住みやすいまち	28.7%
2位	安心・安全なまち	13.4%
3位	子育てがしやすいまち	10.0%
4位	自然が豊かなまち	6.8%
5位	交通の利便性のよいまち	6.8%

●中学生アンケート

順位	イメージ	構成比
1位	住みやすいまち	17.0%
2位	安心・安全なまち	16.5%
3位	街並みの美しいまち	7.7%
4位	先進的なまち	7.3%
5位	子育てがしやすいまち	5.7%